現場訪問――●中部電力（株）三重支店

安全運転とエコドライブの両立を目指して

昨年12月15日、中部電力（株）三重支店（三重県津市）のセーフティ・エコドライブ研修が鈴鹿サーキット交通教育センターで開催された。

同支店総務部人事課の寶門（ほうもん）洋介さんはこの研修の目的を「エコドライブは交通安全教育にも効果的な手法と考え、今回初めて導入しました。また、当社ではCO2削減を推進しており、地球環境保全の観点からも重要な取組みととらえています。社員一人ひとりに各事業所の安全担当者と安全運転主任トレーナーを通じて、エコドライブに関する知識や運転方法を伝えていこうと考えています」と話す。

同支店では、三重県内にある13事業所に安全担当者と安全運転主任トレーナーを置き、小集団活動や同乗指導などにより、社員への安全運転教育を行っている。今回の研修には、その21名が参加した。

エコドライブに関しては、まず座学で、「ふんわりアクセル『eスタート』」[※1]、「クルーズ（巡航）」、アクセルオフによる「フューエルカット」[※2]の活用など、エコドライブに必要な知識を、インストラクターが解説。

参加者は指定されたコースを繰り返し走行して、いかにしたら燃費が向上するかを見つけ出す

安全な車間距離のとり方を学ぶための「反応制動」

その後、参加者は3人で1台のトレーニング車両に乗り、指定されたコースを走行しながら、具体的な運転方法を身につける。1回目は、エコドライブを意識せずに普段通り運転して燃費計で平均燃費を測定。2回目以降は、「ふんわりアクセル『eスタート』」、「クルーズ」などを使って、エコドライブに取り組む。急な操作をせず、先を予測しながらゆとりを持って運転するエコドライブが、安全運転にもつながることを参加者は理解した。

安全運転に関するトレーニングは、「反応制動」や「感情コントロール」（下記TOPICS①参照）などが行われた。「反応制動」は、40km／hで走行中、正面にある信号を点灯させ、参加者が信号のパターンを確認して「左へ回避」「右へ回避」「急ブレーキをかけて停止」の中から操作を判断し、実行するというもの。こうした体験を通して、参加者は安全な車間距離のとり方などを学んだ。

研修に参加した寶門さんは、「単にノウハウを伝えるだけでなく、安全があってのエコドライブであることを、参加者を通じて各職場に徹底していきたい」と今後の抱負を語った。

※1ふんわりアクセル『eスタート』＝普通の発進より少し緩やかに発進すること。
※2フューエルカット＝一定以上のエンジン回転でアクセルから足を離すと燃料の供給が停止される機能。

TOPICS

1 ●交通安全教育を考える～人・企業・信頼

「社内でできる安全運転指導セミナー」in もてぎ

昨年11月24日、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎが、「社内でできる安全運転セミナー」を開催した。これは、職場での安全運転の指導法を、企業の交通安全担当者などに学んでもらうことを目的としており、この日は20団体から38名が参加した。

当日は、「感情抑止とエコで交通事故防止」を全体テーマに、「バック・縦列駐車の指導」「同乗運転のポイント指導」「エコ&セーフティ」「感情コントロール」の4つのコースが用意され、参加者はそれぞれの職場の実情に応じて、2つのコースを受講。インストラクターの丁寧な指導のもと、職場で役立つ安全運転の指導ノウハウを学んだ。

参加者が社内で指導する際の適切な指導法を、インストラクターがわかりやすく説明

「バック・縦列駐車の指導」では、実際に縦列駐車や車庫入れを行いながら、視角や車両の操作方法、安全確認のポイントなどを学び、同時にインストラクターから、社内で指導する際の適切な指導法についてもアドバイスを受けた。

「同乗運転のポイント指導」では、最初にインストラクターが、教室で同乗運転の進め方や注意点を解説。その後は2人1組で乗車し、ツインリンクもてぎ構内を走行しながら、道路状況に合わせた走り方と、その指導法を学んだ。

「エコ&セーフティ」では、走行中の瞬間の燃料消費量を計測し表示する機材を搭載したクルマを運転し、アクセル操作で、燃料消費量がどのように変わるかを確認しながら、安全運転にもつながるエコドライブの方法を学んだ。

「感情コントロール」は、ドライバーが、運転時にネガティブな感情（怒り・焦り）になった時の対処法を見つけ、安全運転に活かすというもの。参加者はグループに分かれて、「渋滞している」「前に割り込まれた」など、さまざまな交通場面における心理状態を話し合い、一人ひとりが自分の感情をコントロールするのに適した言葉（セルフトーク）を見つけ出した。

参加者からは、「このセミナーは、自分でも安全運転のポイントを確認しながら、指導時のコツも学べるのがありがたい。職場に帰ったら、さっそく役立てたい」といった声が聞かれ、職場での事故防止に向けたモチベーションが、さらに高まった様子だった。

「感情コントロール」でのグループディスカッション

2 ●さつき会・七日会・インストラクターキックオフ式典

社内や地域で交通安全活動を推進するホンダパートナーシップ・インストラクターを養成

ホンダは栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本の各製作所内に安全運転普及活動に専任で取り組む「地区普及ブロック」を設置し、地域に根ざした交通安全活動に取り組んでいる。さらに、こうした活動に賛同する関連企業の従業員の中に、ホンダパートナーシップインストラクター（以下、インストラクター）を養成している。

さつき会（上）と七日会（下）のキックオフ式典の模様

各関連企業の社内や周辺地域で交通安全活動を推進してもらい、交通安全の輪を広げていくためだ。これまで、ホンダ協力会社で組織する熊本の「熊輪（ゆうりん）会」、栃木・埼玉の「ホンダ関連企業災害防止協議会」、浜松の「さつき会」、鈴鹿の「七日会」において、38社68名のインストラクターを養成し、本格的な活動を始めている。

11月5日に「さつき会」、同25日に「七日会」のインストラクターのキックオフ式典が、それぞれホテルコンコルド浜松（静岡県浜松市）、鈴鹿サーキットホテル（三重県鈴鹿市）で開催された。

「さつき会」は14名、「七日会」は6名の従業員が交通安全指導に関するノウハウを学ぶための研修を受講。キックオフ式典では、千葉英雄・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が研修受講者にインストラクターの認定証を授与した。

NEWS REVIEW

●2010年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会

40年の節目を迎えた安全運転普及活動

挨拶を行う伊東孝神・本田技研工業（株）社長（写真上）と佐々木真郎・警察庁長官官房審議官（写真下）

昨年12月3日、Honda青山ビルにて「2010年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では、伊東孝紳・本田技研工業（株）社長が「今年は安全運転普及本部が設立から40年の節目を迎えました。皆様の多大なるご理解、ご支援の賜物とお礼を申し上げます」と挨拶。さらに「商品やサービスを通じて、『低炭素化社会』と『安全で快適な交通社会』の実現に向けて、これまで以上に取り組んでいく所存です。安全については、『交通社会に共存する、すべての人の安全をめざす』ことを基本的な考え方に置き、普及活動に取り組んできました。昨年、5つの製作所に設置が完了した地区普及ブロックは、地域に根ざした交通安全普及活動を広げ、これまでに約3500人の指導者を養成し、その指導者が研修を行った人を含めると約48万人に交通安全の輪が広がったことになります」と述べた。

続いて、千葉英雄・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が、2010年の安全運転普及活動の報告と今後の取り組みについて、映像を交えながら紹介した。

さらに、来賓を代表して佐々木真郎・警察庁長官官房審議官が挨拶。「安全運転普及本部の活動が進化しているとともに、人づくり、場づくり、教育機器の開発に努力されていることに感銘を受けました。安全運転普及本部の活動を心強く思っており、今後も期待したい」と語った。

報告会の後の懇談会には、石井隆之・警察庁交通局長も参加し、交通関係者の交流の場となった。

（SJクイズの解答：Q1④、Q2②、Q3①）